

# 山鹿市都市計画マスタープラン(第2期)

【概要版】



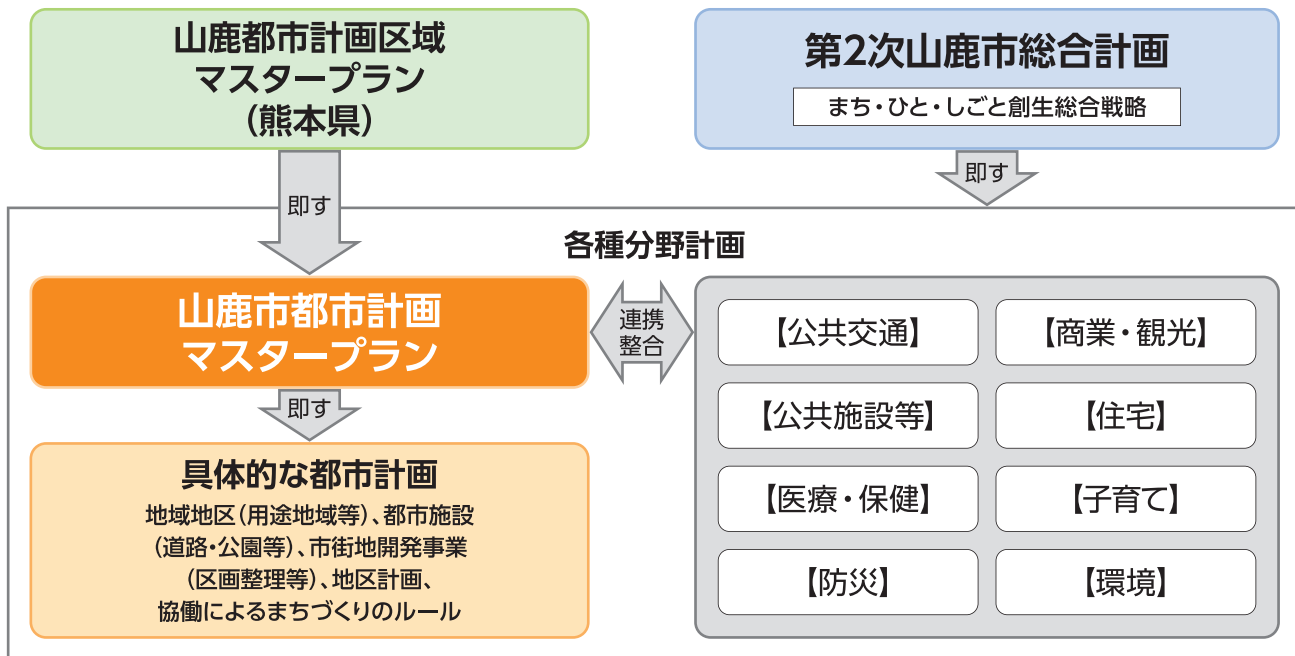
人と自然・産業・歴史文化をつなぐ都市 <sup>まち</sup>やまが  
～多様な暮らしと交流のまちづくり～

令和6年3月  
山鹿市

# 都市計画マスタープラン制度

## 山鹿市都市計画マスタープランの位置づけ

都市計画マスタープランとは、都市計画法第18条の2に規定された「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことであり、地域に密着した見地からまちづくりの将来像を定め、その実現に向けた土地利用や都市整備等の方針を定める計画です。



## 計画の役割

### 都市計画の総合的な指針

- ➡ 土地利用や都市施設の整備など個別の計画を横断的に調整
- ➡ 土地利用規制や各種事業の都市計画を定める際の指針

### まちづくりの指針

- ➡ 都市計画や自然環境、防災など相互に調整を図るまちづくりの指針
- ➡ 市域を超えた広域的な観点からのまちづくりの指針

### 連携と協働の指針

- ➡ 市民等が主体となり、また、市民等と行政がともにまちづくりを進める際の指針

## 計画の対象

- 計画の対象区域は、一体的なまちづくりの観点から【山鹿市全域】とします。
- 計画の期間をおおむね20年間とし、目標年次を【令和25(2043)年】と設定します。



山鹿市の中心市街地

# 山鹿市都市計画マスタープラン

## 改定の背景とまちづくりの視点

### 一体のまちづくり

#### 背景

山鹿市は、平成17年1月に1市4町が合併し誕生しました。

合併当初は、都市計画区域が指定されていた旧山鹿市、都市計画区域が指定されていなかった旧鹿北町、旧菊鹿町、旧鹿本町、旧鹿央町それぞれの地域特性を生かしつつ、一体的なまちづくりの第一歩を踏み出すことが重要でした。

こうしたことから、平成21年3月に策定された山鹿市都市計画マスタープラン(第1期)では、都市計画区域外を含む山鹿市の行政区域全体を計画対象とし、山鹿市が一体として目指す将来都市像を掲げるとともに、その実現に向けたまちづくりの方策を全体構想、地域別構想という観点から計画づくりを行いました。

その後、山鹿市では山鹿市都市計画マスタープラン(第1期)に基づき、地域特性を生かした個性豊かな一体のまちづくりを進めてきたところですが、令和5(2023)年に計画の目標年次を迎えることから、計画の見直しを行うこととしました。

#### 視点

➡ オール山鹿の観点から地域資源の活用や役割分担、連携強化など、**一体のまちづくり**を展開させていくことが重要です。

### 上位・関連計画

#### 背景

法整備や制度改正も進められ、山鹿市では第2次山鹿市総合計画を筆頭に様々な計画を策定し、熊本県においても「山鹿都市計画区域マスタープラン」の改定が行われたことから、これら上位・関連計画との整合を図ることが求められています。

#### 視点

➡ **山鹿らしさ**の創出、**産業振興**基盤の整備、**安全・安心**なまちづくり、**協働**のまちづくり等を進めていくことが重要です。

### 社会経済情勢

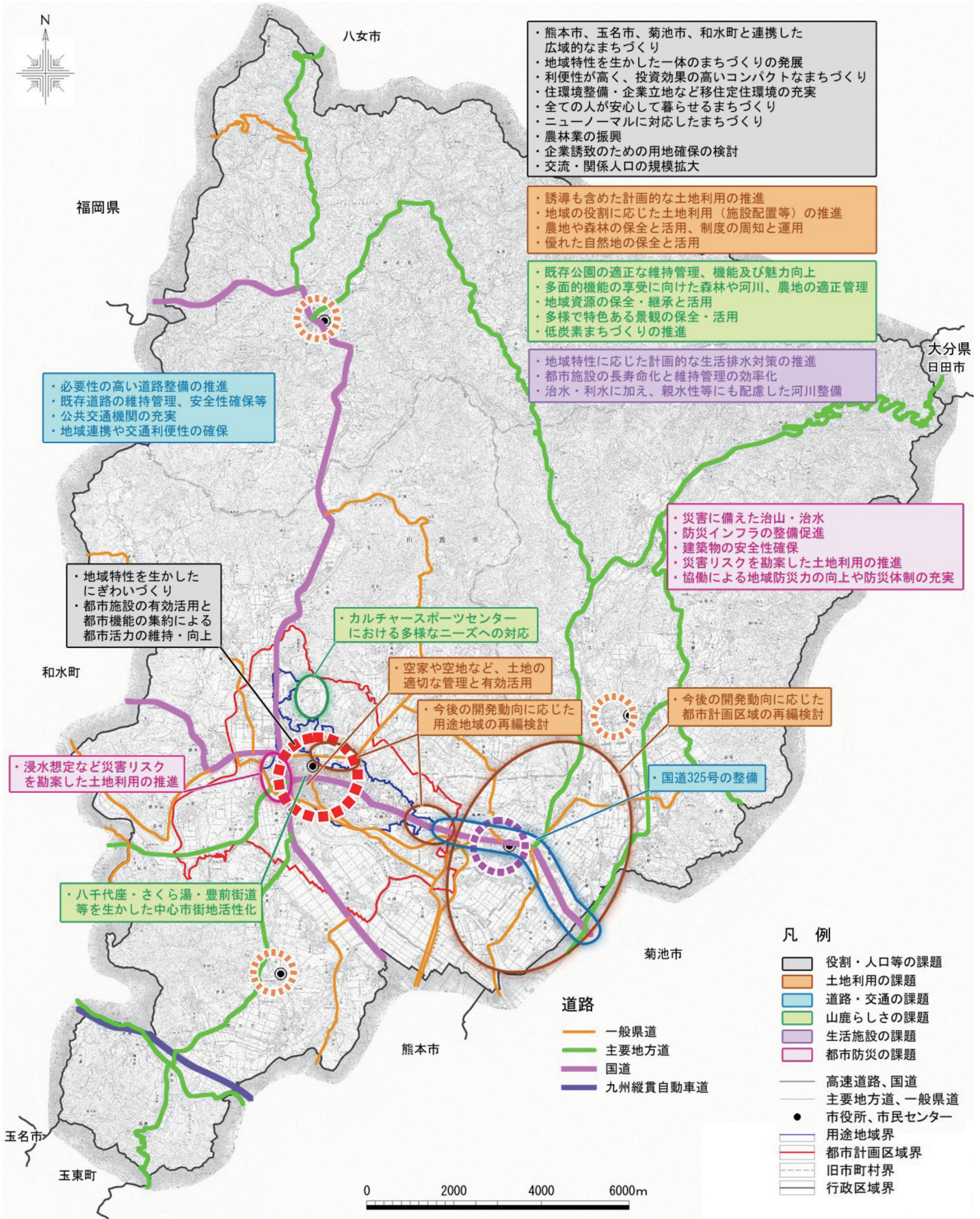
#### 背景

現在、山鹿市では人口減少・少子高齢化社会の進展、頻発・激甚化する自然災害、価値観の多様性・ニューノーマルの時代、環境問題等への意識の高まり、高度情報技術の普及・発展、国内外の経済環境の変化等を背景として、土地利用のあり方、都市機能やコミュニティの衰退、空家等の増加、公共施設等の維持管理など様々な都市の課題への対応が求められています。

#### 視点

➡ 人口減少下において選ばれるまちを目指し、コンパクト+ネットワーク、魅力の向上、効果的なインフラ整備・管理、安全・安心、循環型社会、情報化・DX等の観点から、個性を生かした**持続可能な都市経営**を実現することが重要です。

# まちづくりの課題



# まちづくりの将来像

## まちづくりの基本理念と基本方針

### まちづくりの基本理念

人と自然・産業・歴史文化をつなぐ都市 <sup>ま</sup>ち <sup>ち</sup> やまが  
～多様な暮らしと交流のまちづくり～

### まちづくりの基本方針

#### ➡ 地域や人々の役割分担と連携強化によるオール山鹿のまちづくり

- オール山鹿の視点から各拠点に求められる役割を見つめ直し、近隣市町との広域連携を推進しつつ、必要とされる土地利用の誘導や都市基盤施設の整備を進め、より効果的で利便性の高いコンパクト+ネットワークのまちづくりを推進します。
- 山鹿市のまちづくりにおいては、情報共有や仕組みづくり等の充実により、行政主導型ではなく、参加型のまちづくりを推進します。

#### ➡ 安全・安心・快適で、多様な暮らしを実現するまちづくり

- 治山・治水事業や避難地・避難路等の整備など防災対策を第一としながら、規制や誘導など土地利用制度の適正運用、情報提供や地域防災力の向上など減災対策に取り組み、安全・安心で災害に強いまちづくりを推進します。
- 効果的で利便性の高いコンパクト+ネットワークのまちづくりを前提としながら、良好な住環境の確保を目的とした計画的な土地利用の推進、住み心地を快適にする都市基盤施設の整備や適正な維持管理、高度情報化社会を実現する情報基盤の整備等により、定住人口の維持・確保を図ります。
- 豊かな自然環境や歴史文化等の地域資源を生かしつつ、ニーズに対する柔軟な施策を実施することで多様な暮らしの選択肢を提供し、コロナ禍で生まれたニューノーマルな時代の定住人口の維持・確保を図ります。

#### ➡ 地域資源を生かし、魅力や活力を高め、多様な交流を実現するまちづくり

- 観光資源の魅力向上や新たな観光資源の発掘、観光資源の連携、都市・地域間のアクセス利便性の向上、人材育成や地域づくり、情報発信の充実等により山鹿市の魅力を高め、県北の地の利を生かした交流・関係人口の増加に努めます。
- 山鹿市の基幹産業である農業基盤の保全・整備を基本としながら、安定した就労機会の確保となる企業誘致やそのための基盤整備等に尽力します。また、コンパクト+ネットワークのまちづくりにより投資効果を高め、中心市街地等の活性化を図り、都市の活力・賑わいの向上を推進します。
- 治山・治水対策等を進めながら、これらの自然環境を未来へ継承する貴重な財産として保全するとともに、グリーンインフラとして積極的に活用し、緑が有する多面的機能の享受を図ります。

# まちづくりの将来像

## 将来都市構造

### 拠点等



#### 都市拠点

都市の暮らしを支える都市機能や交通利便性を維持・向上し、都市基盤整備を進めるとともに、都市全体の多様なニーズに応じた都市機能の集積を図ることにより、求心力の高い区域を形成します。



#### 地域拠点

国道325号の交通利便性や既存の都市機能を生かしつつ、地域に必要とされる都市機能の立地や都市基盤整備を進めることにより、周辺地域の暮らしを支え、都市拠点を補完する機能を有する区域を形成します。



#### 生活拠点

生活利便性の維持・向上を図るとともに、中心市街地へのアクセス利便性を確保し、日常生活を支える機能を有する区域を形成します。



#### 交流核

各種資源を保全しつつ、観光やレクリエーションの観点から高付加価値化を図り、加えて、市内に点在する交流拠点のネットワーク化を図ることにより、山鹿市の魅力の核として発信力と求心力の高い区域を形成します。



#### 産業核

周辺の自然環境や生活環境との調和を図りながら、産業機能の拡充・充実に応じた用地の確保や都市基盤等の整備を図ります。

### 交流軸



#### 広域交流軸

日本各地との広域的な連携強化を目的として、施設整備や機能充実等による交通利便性の向上を図ります。



#### 地域交流軸

都市拠点、地域拠点、生活拠点等の連携強化を目的として、施設整備や機能充実、公共交通充実等による交通利便性の向上を図ります。

#### 生活連携(※上記以外の生活道路)

生活利便性の確保を目的として、施設整備や機能充実、安全性確保等を図ります。

### ゾーン



#### 市街地ゾーン

都市機能の維持・向上に必要な人口密度の確保を図るとともに、計画的な土地利用により、機能的な都市活動の推進、良好な居住環境の形成を図ります。



#### 自然共生ゾーン

農地法等の法制度を活用し、豊かな自然環境と共生する、潤いある区域の形成を図ります。

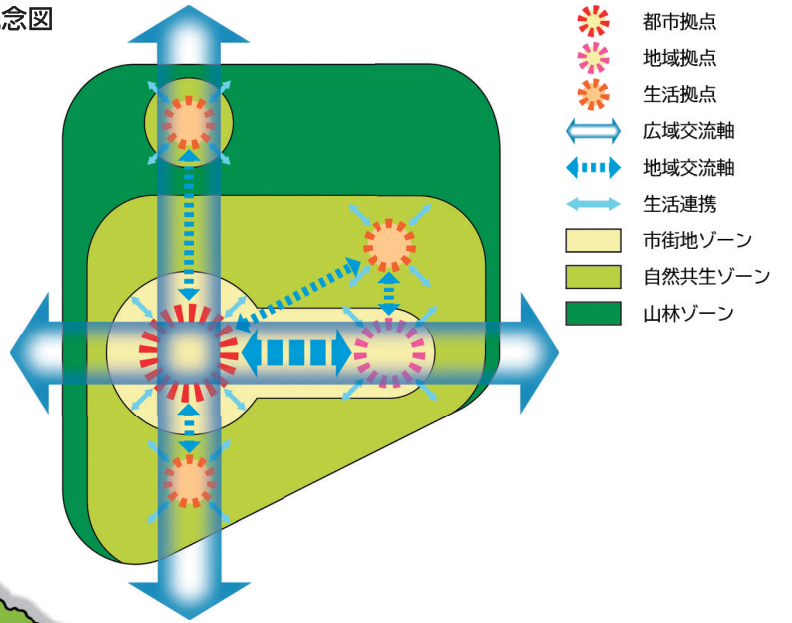


#### 山林ゾーン

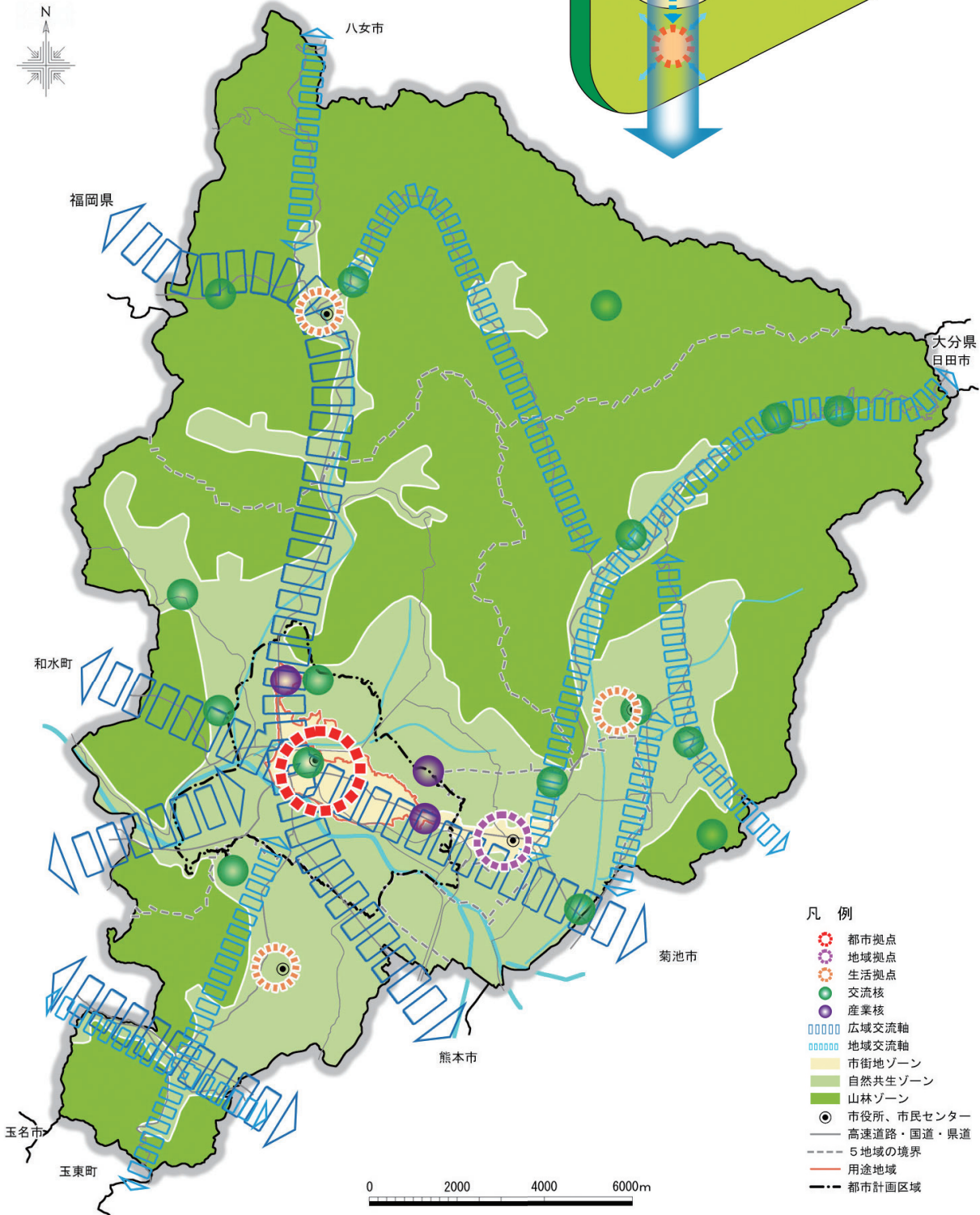
森林の保全による災害防止や生活環境の保全機能、レクリエーションや自然環境教育の場など、緑が有する多面的機能の効果が最大限発揮されるよう、良好な自然環境の保全・活用を図ります。

マークは右ページの将来都市構造図の凡例を示します。

■将来都市構造の概念図



■将来都市構造図



凡例

- 都市拠点
- 地域拠点
- 生活拠点
- 交流核
- 産業核
- 広域交流軸
- 地域交流軸
- 市街地ゾーン
- 自然共生ゾーン
- 山林ゾーン
- 市役所・市民センター
- 高速道路・国道・県道
- 5地域の境界
- 用途地域
- 都市計画区域

# まちづくりの方針

## 土地利用

- 土地利用のゾーニング
- 持続可能な都市の骨格づくり
- 計画的な土地利用
- きめ細かな土地利用のルールづくり



工業地域(用途地域)

## 用途別の土地利用方針

住居系	一般住宅地	● 店舗・事務所等との共存、都市基盤の整備、景観の誘導、利便性の高い魅力ある良好な居住環境の形成
	専用住宅地	● 小規模な店舗等の立地、ゆとりと落ち着きのある良質な居住環境の保全
	集落地	● 自然環境と融合した良好な居住環境の保全
	全般	● 多様なニーズに応じた定住人口の確保、都市基盤の整備状況等を勘案した住宅用地の確保、ハード・ソフト対策による安全性の向上
商業系	都市拠点	● 投資効果の向上、効率的な土地利用、低・未利用地の活用、歴史的資源の保全・活用等による都市機能の充実、賑わいづくり、魅力ある土地利用の形成
	地域拠点及び 国道325号沿道等	● 優良農地の保全を原則としながらの生活利便施設等の集積、風情ある街並みの形成
	生活拠点	● 生活利便施設を配置、アクセス利便性の確保
工業系	産業核	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基盤整備など操業環境の充実等による、既存の工業系土地利用の維持・推進</li> <li>● 国道3号、国道325号及び市道杉方保田線(通称:国体道路)沿いを中心とした適地への工業系土地利用の誘導</li> <li>● 多様なニーズに応じた工業・流通業務用地の適地検討による積極的な企業誘致の展開</li> </ul>
自然系	交流核	● 良質な歴史・文化・自然の保全・調和、都市基盤やアクセス利便性の充実
	農地	● 優良農地の維持・保全、耕作放棄地の発生抑制、積極的な土地利用のマネジメント、必要に応じた都市的土地利用への転換
	里山	● 適正な維持管理、公益的機能の維持、ふれあい体験する場としての活用
	山林	● 良好な自然環境の保全・活用、法や条例等による保全地域の指定検討
市街地整備	都市拠点	● 都市再生整備計画事業等の導入、魅力や利便性の向上、面的整備手法の導入検討
	用途地域	● 木造密集市街地の改善、都市基盤の整備、良好な住環境の創出、防災・減災対策等、定住促進等施策の展開、高密度で良質な住宅市街地の形成
	地域拠点及び 国道325号沿道等	● 新たな宅地開発等の適地選定、持続可能な都市経営の実現
	生活拠点	● 農林分野の手法等の活用、市街地環境の改善

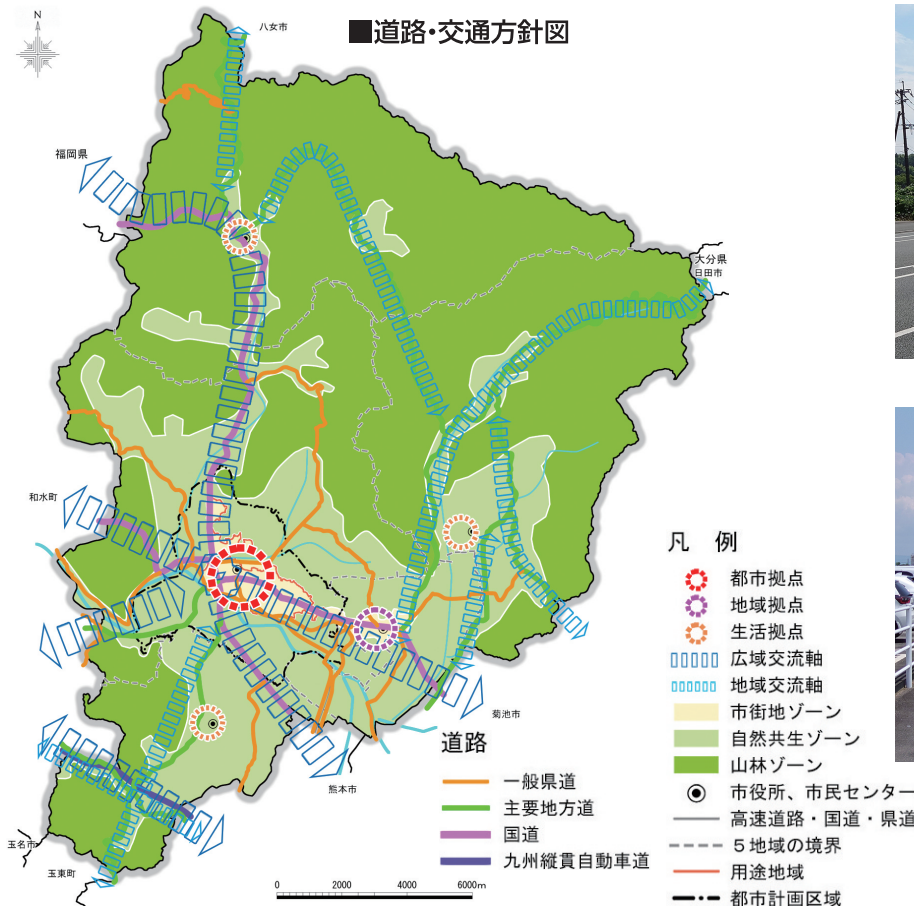


# 道路・交通

- 一体性を高める交通ネットワーク
- 都市活動を支える広域連携の強化
- 安全・安心な交通環境
- 持続可能な地域公共交通の構築

## 道路・交通の整備方針

- |      |   |   |
|------|---|---|
| 道路網  | 広域交流軸   | ● 道路整備や適正な維持管理、渋滞対策、防災機能の充実、歩行者や自転車の安全確保、ユニバーサルデザインの確保、景観整備によるイメージの向上                   |
|      | 地域交流軸   | ● 体系的なネットワーク構築、通過交通の処理能力向上、未整備区間の整備、適正な維持管理、防災機能の充実、歩行者や自転車の安全確保、ユニバーサルデザインの確保、良好な景観形成等 |
|      | 生活連携(広域・地域交流軸以外)  | ● 狭隘道路の改善、街路灯や防護柵の設置、ユニバーサルデザインの確保、計画的な農道・林道の整備と適正な維持管理                                 |
| 交通環境 | ● 安全・安心で人にやさしい交通環境の創出、歴史・文化的価値を高める整備・維持管理、道路空間の高質化や駐車場・公園・サイクリングロード・サイン等の整備による交流ネットワークの充実、災害に強い道路網の形成、自転車利用の促進に向けた整備・啓発活動 |   |
| 公共交通 | ● 周辺自治体との連携強化、ネットワークの形成、サービス水準の設定、交通モードの設定、利用者の移動ニーズへの対応、利用環境の検証・改善、利用の喚起、公共交通を創り・守り・育てる雰囲気づくり、仕組みづくり                     |   |



国道325号の4車線化



国道3号

# まちづくりの方針

## 山鹿らしさ

- 山鹿らしさによる郷土愛の醸成と交流等の促進
- 公園・広場等の機能や管理及び子育て環境の充実
- 山鹿景観の創出
- 循環型社会の構築

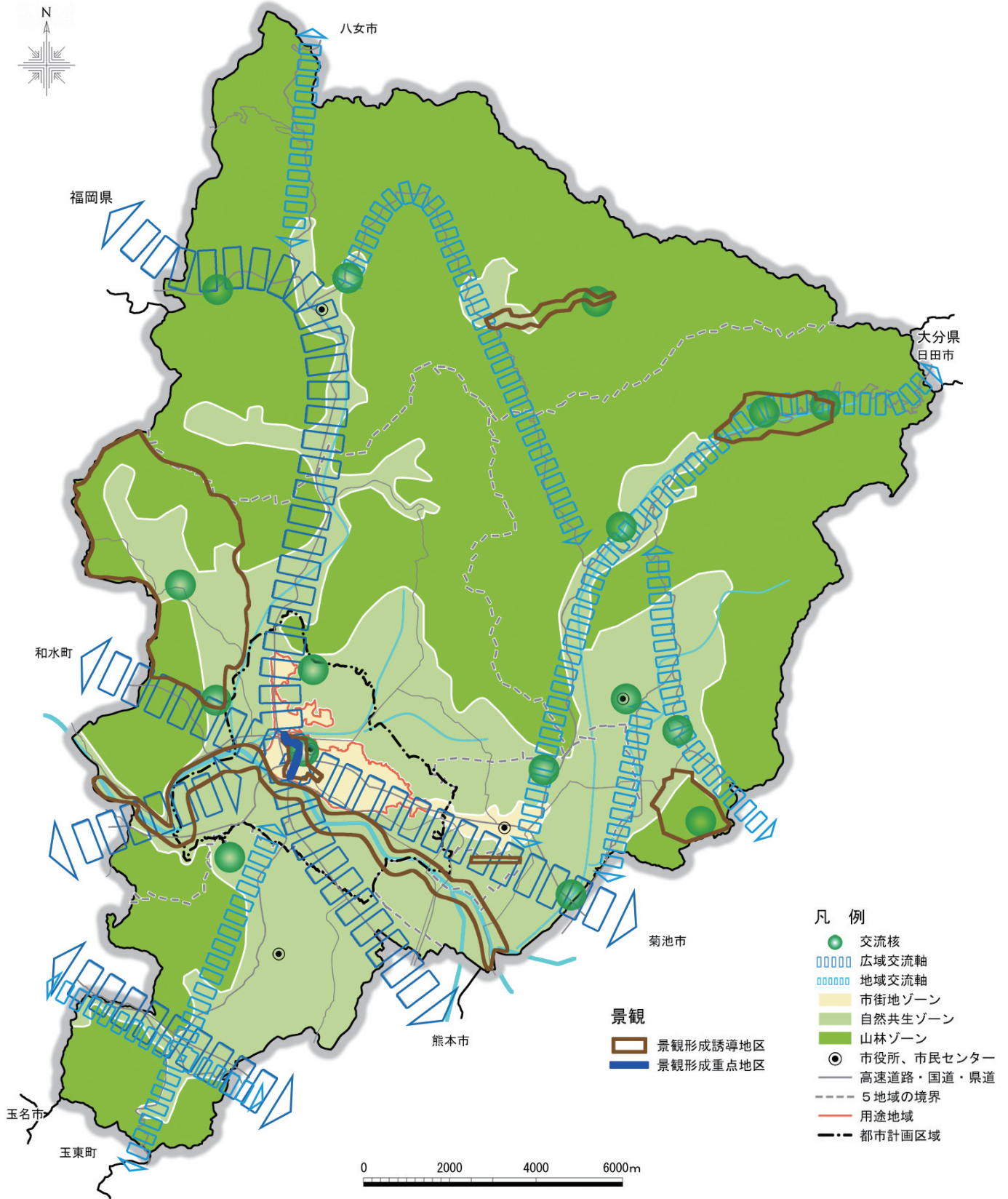


豊前街道

## 山鹿らしさの整備方針

山鹿らしさによる郷土愛の醸成と交流等の促進	山鹿らしさの資源	● 山林や農地等の豊かな自然環境の適切な維持、魅力の核となる資源の機能維持・増進、新たな資源の創出、民間活力の導入検討
	山鹿らしさの基盤	● 水と緑のネットワーク構築、多様な生態系の維持、多様な魅力の維持・創出、人流の活発化を見据えた道路整備、サイン整備やサイクリングロードなど道路機能の充実、公共交通の機能強化等
	山鹿らしさの人・情報	● 緑に関する意識啓発や活動支援、協働の仕組みづくり、人材育成の支援や仕組みづくり、魅力の積極的な発信
公園・広場等の機能や管理及び子育て環境の充実	身近な公園・広場等	● 人口バランスに配慮した適正配置、宅地開発等における公園・広場等の整備指導、防災機能に配慮した公園づくり、防災機能の向上、施設の点検・改修、維持管理、利用満足度の向上
	その他の公園・広場等及び子育て環境	● 自然や歴史文化とふれあう公園の機能強化、山鹿墓地公園の適正管理・利用促進、鞠智城跡周辺の豊かな自然環境の保全・国営公園化・公園機能強化による魅力向上、カルチャースポーツセンターの機能維持・増進・整備の可能性検討、公園施設の長寿命化と指定管理の継続・新たな民間活力の導入検討、効果的・効率的な子育て支援による子どもを生み育てやすい環境づくり
山鹿景観の創出	山鹿の自然景観づくり	● 豊かな自然環境における農林業振興、自然とのふれあい空間の整備・維持管理
	山鹿の歴史・文化景観づくり	● 歴史・文化が刻まれた特色ある地区及び周辺環境の保全、歴史・文化景観と伝統文化やまちおこし活動との連携
	山鹿の都市景観づくり	● 中心市街地における歴史文化と賑わいが融合したおもてなしの都市景観の創出、山鹿市への主なアクセス道路における好印象な都市景観の創出
	山鹿の居住景観づくり	● 市街地の良質な緑地の保全、公園・広場等の整備、緑化の促進等
	山鹿の景観形成の進め方	● 普及・啓発活動や人材育成、団体等の活動支援、参加型まちづくりの仕組みづくり、必要に応じた景観計画の見直し
循環型社会の構築	資源・エネルギーの有効活用	● 積極的な省エネ活動や新エネ利用の促進
	環境負荷の軽減	● 温室効果ガスの排出の量を削減等する取組の推進、カーボンニュートラルの実現、再生可能エネルギーの利用推進、経済社会システム全体を変革しようとする取組(GX:グリーントランスフォーメーション)の促進

# 山鹿らしさ方針図



# まちづくりの方針

## 生活環境施設

### ●良質な暮らしを実現する生活環境施設の整備等


### 生活環境施設の整備方針

良質な暮らしを実現する生活環境施設の整備等	下水道	●持続的な下水道事業の運営のための効率的な投資計画に基づいた処理場・ポンプ場や管路施設の改築・更新、下水汚泥の集約処理等の効率化、合併処理浄化槽の設置の推進
	上水道	●安心で安定的な水道水の供給、災害に強い水道施設、効率的・安定的な経営体制、小規模水道施設の整備支援
	河川	●親水性に優れた河川環境の創出や維持管理
	公共施設等	●計画的な施設等の更新や長寿命化、財政負担の平準化、効率的で効果的な維持管理、機能拡充等による効果的な整備検討

## 安全・安心

### ●災害に強いまちづくり ●防犯・福祉など安心なまちづくり

### 安全・安心の整備方針

災害に強いまちづくり	●河川改修による安全性の確保、水害被害を軽減させる流域治水の推進	<b>流域治水のイメージ</b>  <small>資料:国土交通省</small>
	●河川・水路・公共下水道の整備や雨水貯留施設の設置、土地利用の誘導等の内水氾濫対策	
	●森林の造成・維持や土砂災害危険箇所の防災対策	
	●ライフラインや防災関連施設等の耐震性・代替性の確保や多重化等による災害に強い都市基盤の整備	
	●土地利用や道路・公園・市街地整備等が一体となった強靱な都市づくり	
	●避難所・避難場所等の耐震化や不燃化等による防災機能の強化、避難経路に応じた新たな施設の確保検討	
	●大規模災害等に備えた復興事前準備の取組検討	
	●防災情報の収集・伝達体制の整備、ICT活用など情報伝達手段の多様化	
	●ハード・ソフト両面からの密集市街地等における防災・減災	
	●被害を最小限に抑える減災を進めるための地域防災力の強化に向けた取組の推進	
安心なまちづくり	交通安全・防犯	●通学路を中心とした歩行者の安全確保、交通安全施設の点検や整備、危険箇所の改善、交通安全意識の普及・啓発活動、防犯灯・防犯カメラの適正な維持管理、地域防犯活動等
	福祉・健康	●不特定多数が利用する道路・公園・公共施設等におけるユニバーサルデザインの推進、市民の健康増進の支援

# 地域別構想

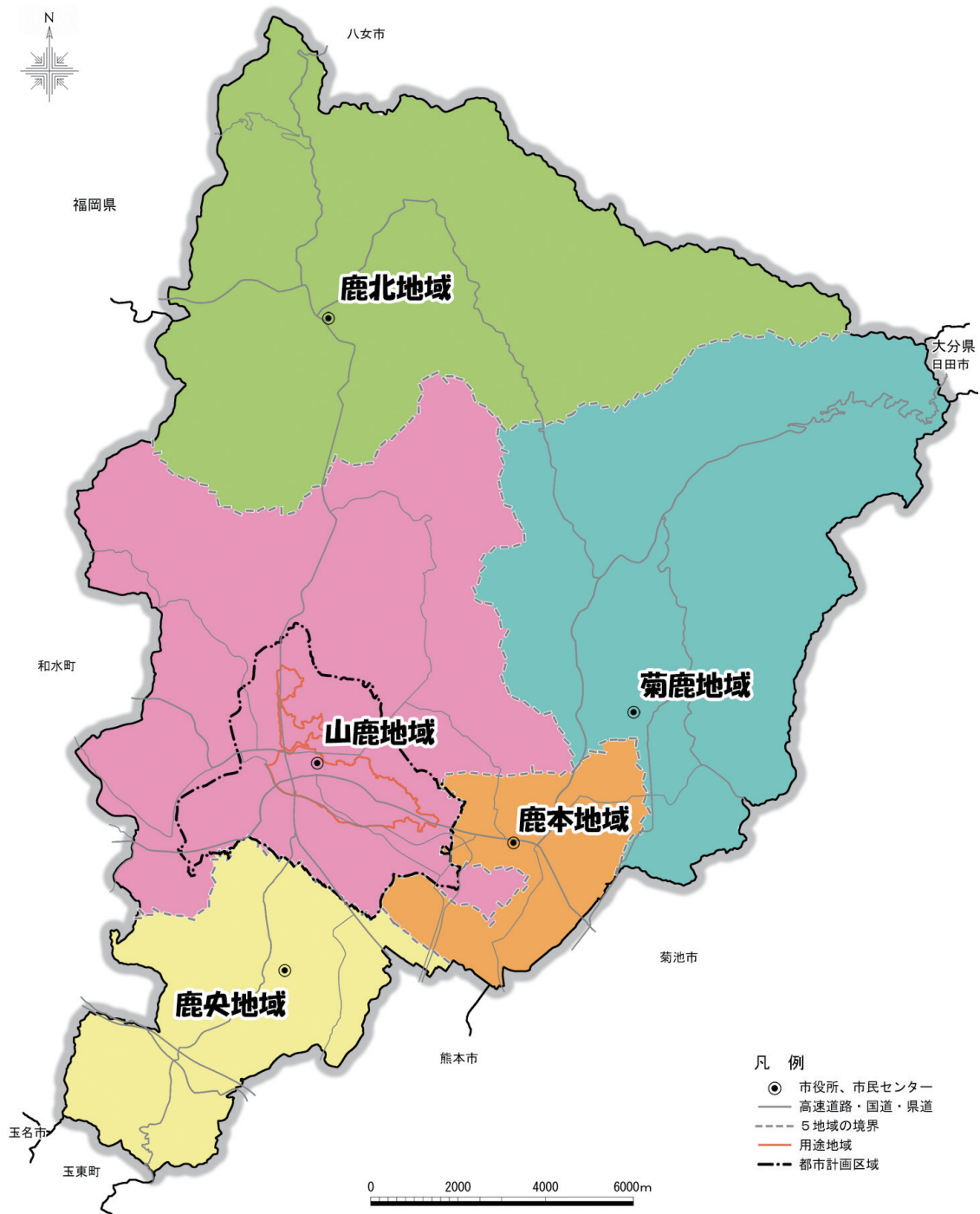
## 地域別構想とは

地域別構想とは、各地域の特性や役割を明らかにした上で、全体構想との整合を図りつつ、地域で取り組むべき基本の方針を示すものです。

なお、地域別構想は、各地域がそれぞれに地域づくりを進めるための指針ではなく、各地域の連動による相乗効果で山鹿ブランドを高め、山鹿のまちづくりに展開していくための指針とするものです。

## 地域区分

地域区分は、地形的・地理的条件や歴史的背景、日常生活の圏域等を総合的に勘案し、まとまりのある空間として、旧市町界を基本とした山鹿・鹿北・菊鹿・鹿本・鹿央の5地域を設定します。



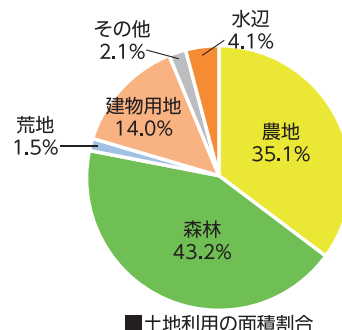
# 地域別のまちづくり方針

## 山鹿地域

### 地域の概況

#### 【概況】

- 山鹿市の中心地であり、広域性の高い都市機能が集約しています。
- 人口は減少傾向にあり、人口密度の低下等がうかがえます。
- 一部の区域で都市計画区域及び用途地域が指定され、国道325号沿いでは、鹿本地域との土地利用の連担性が高まっています。
- 八千代座、豊前街道など山鹿市における魅力の発信拠点となっています。
- 東部工業団地等の産業核を有しています。



### 地域の主要課題

#### 【地域の魅力】

- 山鹿市の顔として、おもてなしの空間を演出することが重要です。
- 多くの観光・交流施設等を生かし、山鹿らしさの中核としての役割を果たすことが重要です。
- 交通利便性の優位性等から、新たな産業用地の確保が重要です。

#### 【暮らし】

- 山鹿市の中心として地域活力の維持向上を目指すため、利便性が高く、投資効果の高いコンパクトなまちづくりが重要です。
- 開発動向等に応じた計画的な土地利用が重要です。
- まちなかで多様な世代が安全・安心・快適に暮らすため、居住環境の整備等が重要です。
- 山鹿市の中心として、拠点及び交流核とのアクセスの充実が重要です。



八千代座



山鹿灯籠まつり

### 地域づくりの目標

#### 【テーマ】

**魅力と利便性を高め、人々を惹きつける地域“やまが”**

#### 【目標】

##### おもてなしの魅力があふれる地域づくり

多くの観光・交流施設等を生かすとともに、景観づくりや施設整備、人材育成等を図り、おもてなしの空間として人々を惹きつける地域づくりを進めます。

##### 暮らしの利便性が高い地域づくり

計画的な土地利用や居住環境の整備、アクセスの充実等により、まちなかの人口規模・密度の確保や都市機能の維持・向上を図り、山鹿市の中心地として人々を惹きつける地域づくりを進めます。

## ■地域づくり方針図(山鹿地域)

### ①おもてなしの魅力があふれる地域づくり

#### 【都市拠点】

- ・ 住み、訪れ、楽しむ場所として魅力ある空間形成
- ・ 魅力ある観光市街地
- ・ 滞在型の観光地づくり
- ・ 活性化の拠点(さくら湯)
- ・ 暮らしの質や活力の向上
- ・ 利便性の高い駐車場整備の検討

#### 【交流核等】

- ・ 観光交流機能の充実
- ・ 滞在型の観光地づくり
- ・ 親水性に優れた河川空間の創出
- ・ 回遊性の高い地域づくり

#### 【産業】

- ・ 企業用地の適地検討と操業環境の充実
- ・ 農林業の活性化

### ②暮らしの利便性が高い地域づくり

#### 【土地利用】

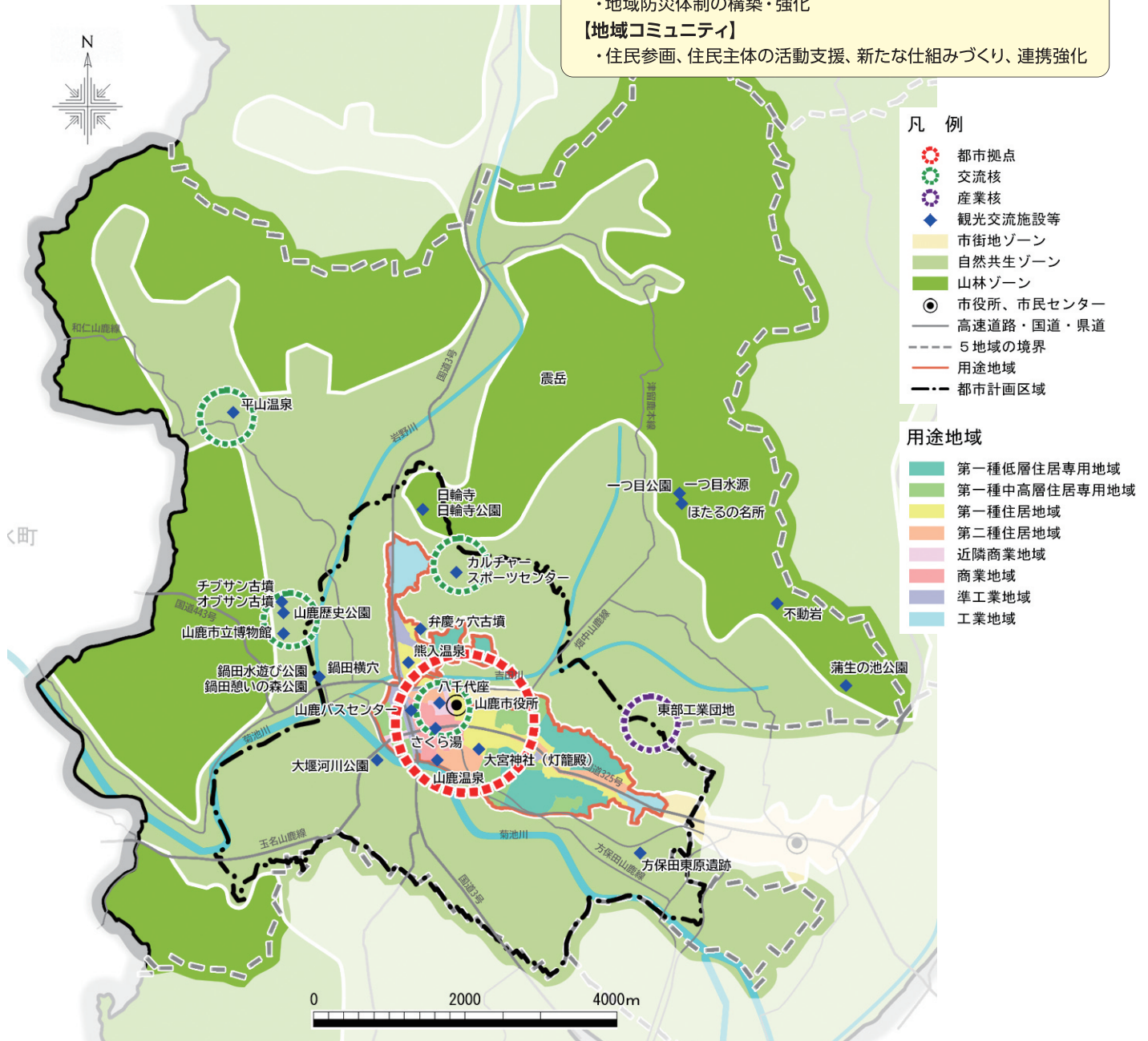
- ・ 計画的な土地利用、コンパクトなまちづくり
- ・ 都市計画区域の再編や用途地域の見直しの検討
- ・ 自然環境と生活環境が調和した土地利用
- ・ 優良農地の保全・整備
- ・ 土地の利用・管理のあり方の検討
- ・ 豊かな自然環境の保全・活用

#### 【都市基盤施設等】

- ・ 道路の維持・整備、狭隘道路の改善、誘導サインの整備など
- ・ 地域の実情に応じた公共交通やあり方の検討、山鹿バスセンターの機能強化
- ・ 合併処理浄化槽設置の促進
- ・ 水道施設の更新、小規模水道施設の整備支援
- ・ 公共施設の長寿命化
- ・ 洪水浸水想定区域の安全性の向上
- ・ 治山・治水、開発規制や建築物の構造規制、警戒避難体制の整備
- ・ 地域防災体制の構築・強化

#### 【地域コミュニティ】

- ・ 住民参画、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化



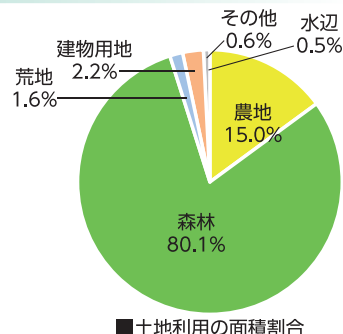
# 地域別のまちづくり方針

## 鹿北地域

### 地域の概況

#### 【概況】

- 山鹿市の北部に位置し、山々に囲まれた自然豊かな地域です。
- 人口は減少傾向で、高齢化率が47.4%と地域活力の低下がうかがえます。
- 山間部であり、土砂災害のリスクが高くなっています。
- 道の駅かほく(小栗郷)を中心とした、都市と農村の交流や自然体験、地域活力の向上にかかる取組が進められています。
- 「鹿北茶山唄全国大会」「かほくまつり」等の文化活動が継承されています。



### 地域の主要課題

#### 【地域の魅力】

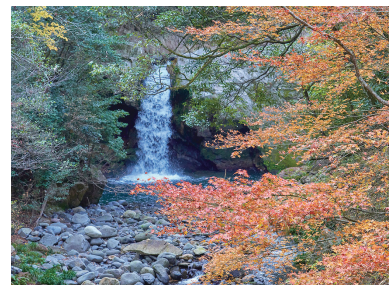
- 豊かな自然環境や歴史・文化を保全・活用しつつ、日常生活を支える生活利便施設を整え、穏やかで潤いのある持続可能な地域づくりを進めることが重要です。
- 基幹産業である農林業の振興を図りつつ、6次産業化など新たな魅力を創出し、都市住民との交流による地域活力の向上を図ることが重要です。
- スローライフなど多様化するニーズに適応した交流や暮らしの場づくりが重要です。



茶摘み

#### 【暮らし】

- 豊かな自然環境と融合した、持続可能でコンパクトなまちづくりが重要です。
- 農林業の振興及び居住環境の確保の双方の観点から、土地利用のマネジメントが重要です。
- 日々の暮らしの質を維持するため、居住環境の整備等が重要です。
- 都市拠点とのアクセスの充実が重要です。



岳間溪谷

### 地域づくりの目標

#### 【テーマ】

豊かな自然環境に抱かれ、**穏やかな心を育む地域“かほく”**

#### 【目標】

##### 自然の魅力を発信する地域づくり

岳間溪谷キャンプ場や道の駅かほく(小栗郷)などを通じて、自然とふれあう場づくりを進め、市内外の人々の穏やかな心を育む地域づくりを進めます。

##### 豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

地域の8割を占める山林や岩野川など豊かな自然環境を保全するとともに、これらの恵みを楽しみつつ、生活の利便性確保、連携強化及び居住環境の整備等を図り、穏やかな心を育む地域づくりを進めます。



## ■地域づくり方針図(鹿北地域)

### ①自然の魅力を発信する地域づくり

#### 【生活拠点】

- ・持続可能でコンパクトな地域づくり

#### 【交流核等】

- ・おもてなし空間の演出
- ・道の駅かほく(小栗郷)を核とする体験交流や情報発信
- ・伝統文化の継承と発信による都市間交流や世代間交流の促進

#### 【産業】

- ・農林業の活性化
- ・地産地消の推進、農業経営の活性化

### ②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

#### 【土地利用】

- ・適正な土地利用の誘導
- ・優良農地の保全・整備
- ・土地の利用・管理のあり方の検討
- ・豊かな自然環境の保全・活用
- ・森林地域の保全・整備

#### 【都市基盤施設等】

- ・道路の維持・整備、狭隘道路の改善など
- ・地域の実情に応じた公共交通やあり方の検討
- ・公園やスポーツ施設の充実
- ・合併処理浄化槽設置の促進
- ・水道施設の点検及び更新計画、小規模水道施設の整備支援
- ・公共施設等の長寿命化
- ・治山・治水、開発規制や建築物の構造規制、警戒避難体制の整備
- ・地域防災体制の構築・強化

#### 【地域コミュニティ】

- ・住民参画、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化



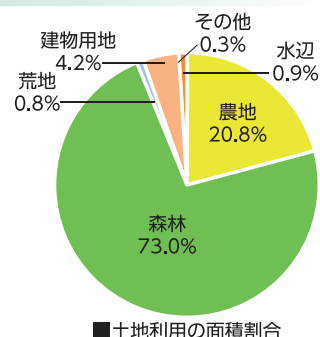
# 地域別のまちづくり方針

## 菊鹿地域

### 地域の概況

#### 【概況】

- 山鹿市の東部に位置し、矢谷溪谷等の自然が豊かな地域です。
- 人口は減少傾向にあり、農地や山林の荒廃が進んでいます。
- 山間部であり、土砂災害のリスクが高くなっています。
- 自然体験や観光交流、地域活力の向上にかかる取組が進められており、特に鞠智城跡では国営公園化を目指した普及啓発事業等を実施しています。



### 地域の主要課題

#### 【地域の魅力】

- 日常生活を支える生活利便施設を整え、穏やかで潤いのある持続可能な地域づくりを進めることが重要です。
- 基幹産業である農林業の振興を図りつつ、豊かで良質な自然環境や歴史・文化を保全・活用し、地域活力や観光交流の増進に展開していくことが重要です。特に鞠智城跡や菊鹿ファイナリー等の資源の有効活用を図り、積極的に情報発信することが重要です。
- スローライフなど多様化するニーズに適応した交流や暮らしの場づくりが重要です。



歴史公園鞠智城

#### 【暮らし】

- 豊かな自然環境と融合した、持続可能でコンパクトなまちづくりが重要です。
- 農林業の振興及び居住環境の確保の双方の観点から、土地利用のマネジメントが重要です。
- 日々の暮らしの質を維持するため、居住環境の整備等が重要です。
- 都市拠点や地域拠点とのアクセスの充実が重要です。



番所の棚田

### 地域づくりの目標

#### 【テーマ】

歴史・文化と自然を育み、**交流が芽生える**地域“きくか”

#### 【目標】

##### 活発な交流を生み出す地域づくり

鞠智城跡や矢谷溪谷など豊かな歴史文化や自然環境の保全・活用により、地域活力や観光交流を増進し、市内外の人々の交流の芽生えとなる地域づくりを進めます。

##### 豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

地域の7割を占める山林や上内田川・木野川、矢谷溪谷など豊かな自然環境を保全するとともに、これらの恵みを楽しみつつ、生活の利便性確保、連携強化及び居住環境の整備等を図り、交流の芽生えとなる地域づくりを進めます。

## ■地域づくり方針図(菊鹿地域)

### ①活発な交流を生み出す地域づくり

#### 【生活拠点】

- ・持続可能でコンパクトな地域づくり

#### 【交流核等】

- ・景観など地域環境と一体となった保全
- ・連携強化による地域活力の向上や観光交流機能の充実
- ・国営公園化に向けた機運の醸成

#### 【産業】

- ・農林業の活性化
- ・地産地消の推進、農業経営の活性化

### ②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

#### 【土地利用】

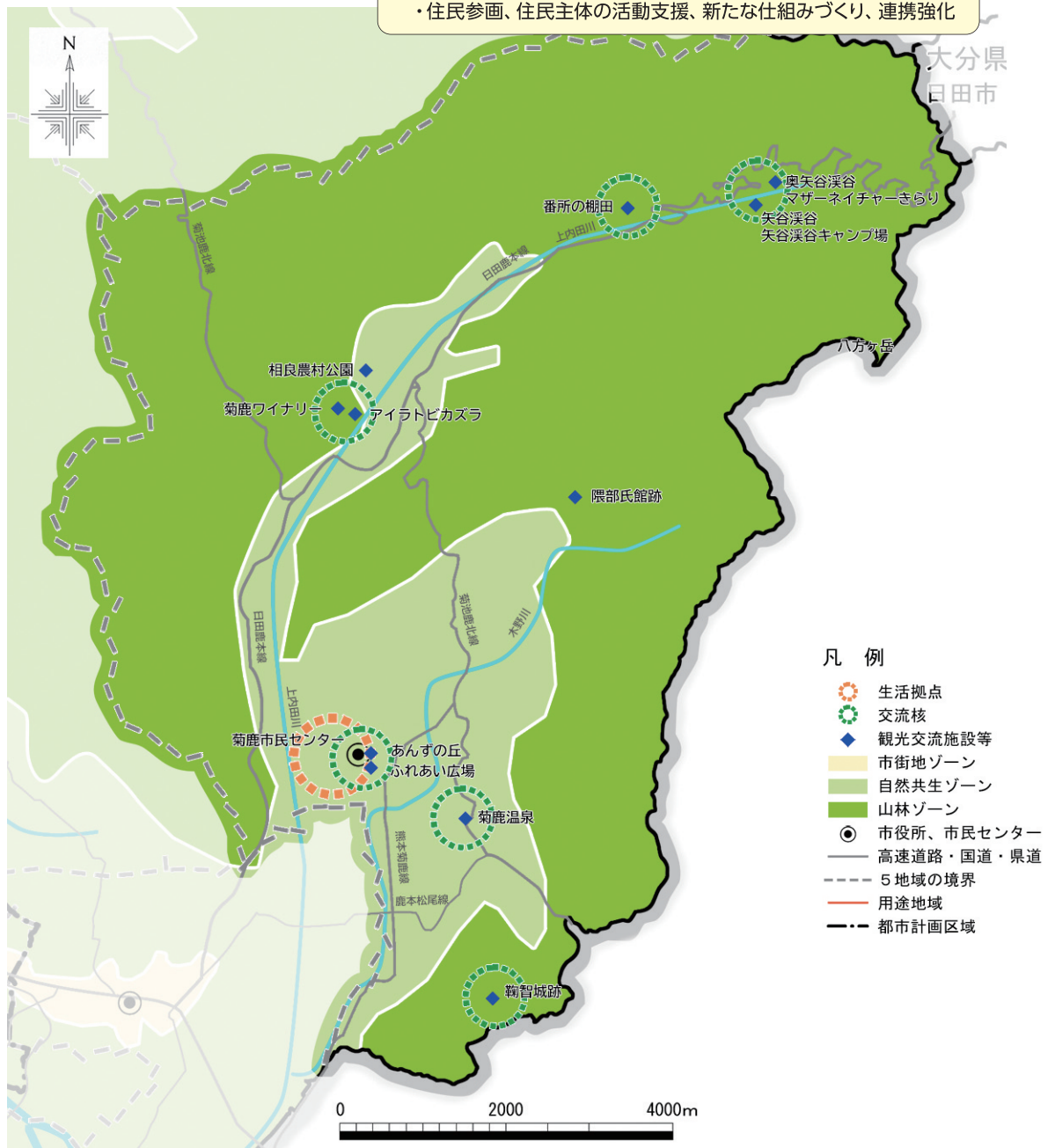
- ・適正な土地利用の誘導
- ・優良農地の保全・整備
- ・土地の利用・管理のあり方の検討
- ・豊かな自然環境の保全・活用
- ・番所の棚田の積極的な保全、地域住民による継承
- ・森林地域の保全・整備

#### 【都市基盤施設等】

- ・道路の維持・整備、狭隘道路の改善など
- ・地域の実情に応じた公共交通やあり方の検討
- ・合併処理浄化槽設置の促進
- ・水道施設の点検及び更新計画、小規模水道施設の整備支援
- ・公共施設等の長寿命化
- ・治山・治水、開発規制や建築物の構造規制、警戒避難体制の整備
- ・地域防災体制の構築・強化

#### 【地域コミュニティ】

- ・住民参画、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化



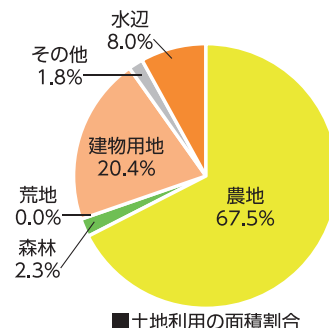
# 地域別のまちづくり方針

## 鹿本地域

### 地域の概況

#### 【概況】

- 山鹿市の南東部に位置し、地域の大部分が平坦地です。
- 人口は減少傾向にあるものの、他地域に比べ減少率は低くなっています。
- 山鹿地域との土地利用の連坦性は高く、国道325号沿道を中心に住宅地の開発、商工業施設の立地が進んでいます。
- 道の駅水辺プラザかもとでは、基幹産業である農業の活性化、交流の促進等が進められているほか、来民商店街では白壁土塀が残っているなど、歴史的風情を感じることが出来ます。



### 地域の主要課題

#### 【地域の魅力】

- 都市拠点を補完する地域として、都市機能の集積や市民交流による賑わいの創出を図ることが重要です。
- 菊池川等の親水性、来民商店街の歴史的風情の残る街並み、6次産業化等による特産品など地域特性が融合した新たな魅力を創出し、道の駅水辺プラザかもとを核として積極的に情報発信することが重要です。
- 基幹産業である農業の振興を図りつつ、交通利便性の優位性を生かした新たな雇用の場の創出を検討することも重要です。



石のかざぐるま

#### 【暮らし】

- 都市拠点を補完する地域として、賑わいや地域活力の創出を図りつつ、自然環境にも配慮したコンパクトなまちづくりが重要です。
- 道路整備や開発動向、都市拠点との土地利用の連坦性等を考慮した計画的な土地利用が重要です。
- 多様な世代が安全・安心・快適に暮らすため、居住環境の整備等が重要です。
- 拠点及び交流核とのアクセスの充実が重要です。



来民うちわ

### 地域づくりの目標

#### 【テーマ】

自然と生活が融合し、賑わいと活力を支える地域“かもと”

#### 【目標】

##### 生き生きと活動する地域づくり

道の駅水辺プラザかもとを核として、豊かな自然や歴史文化を生かした交流促進を図ることにより、市内外の人々の賑わいと活力を支える地域づくりを進めます。

##### 暮らしの利便性とゆとりある地域づくり

自然環境に配慮した計画的な土地利用や居住環境の整備、アクセスの充実等により、人口密度や都市機能の確保を図り、賑わいと活力を支える地域づくりを進めます。

## ■地域づくり方針図(鹿本地域)

### ①生き生きと活動する地域づくり

#### 【地域拠点】

- ・鹿本市民センター周辺における都市機能の立地誘導
- ・鹿本市民センターにおける市民・世代間交流の機能の維持・増進
- ・暮らしの質や活力の向上

#### 【交流核等】

- ・おもてなし空間の演出
- ・道の駅水辺プラザかもとを核とする情報発信
- ・親水性に優れた河川空間の創出と観光交流の機能増進

#### 【産業】

- ・企業用地の適地検討と操業環境の充実
- ・来民商店街における魅力ある空間形成と地域活力の向上
- ・農業の活性化
- ・地産地消の推進、農業経営の活性化
- ・魅力あるものづくりによる地域活力の向上と郷土愛の醸成

### ②暮らしの利便性とゆとりある地域づくり

#### 【土地利用】

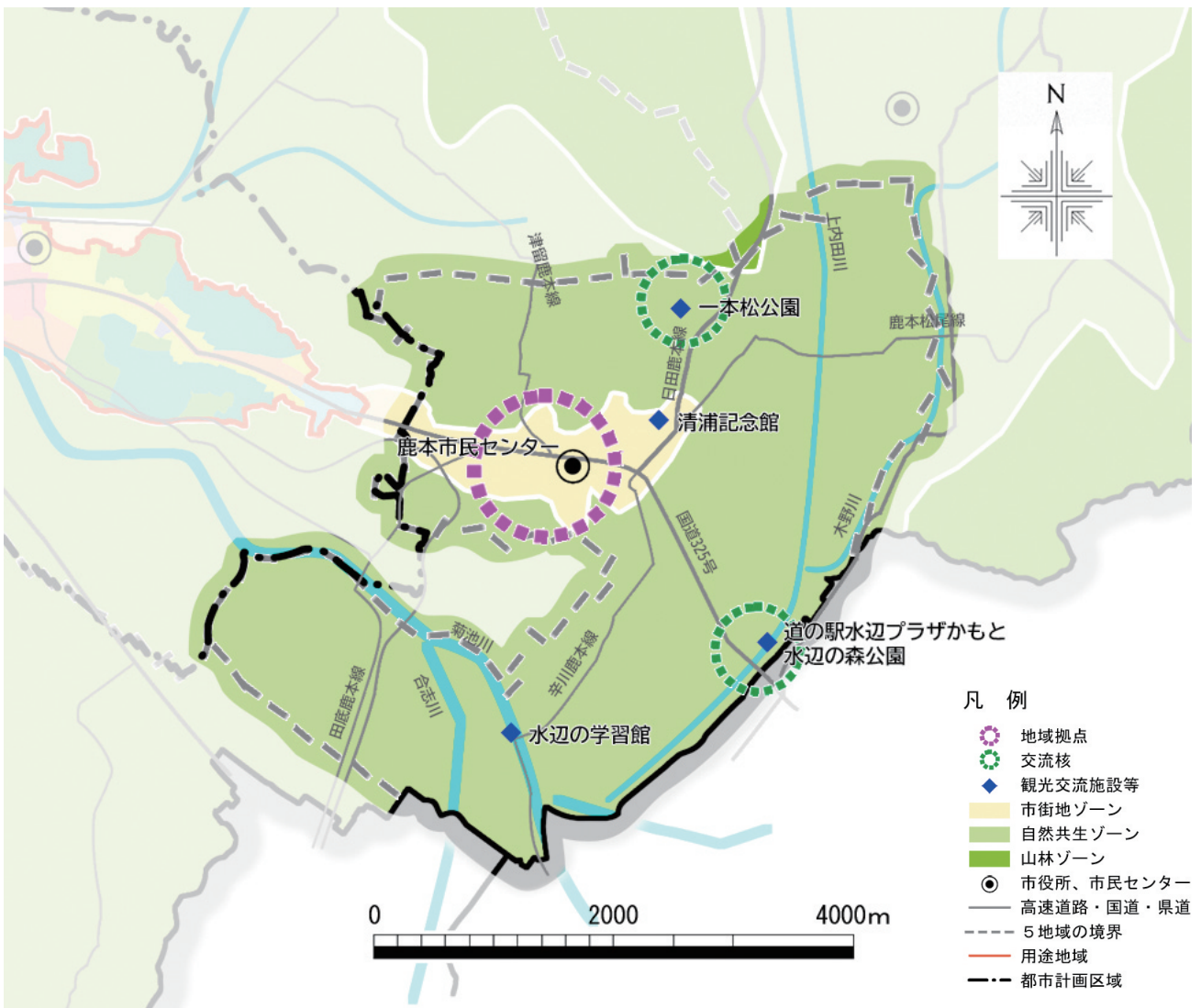
- ・秩序ある土地利用とコンパクトなまちづくり
- ・都市計画区域及び用途地域の指定検討
- ・適正な土地利用の規制・誘導
- ・自然環境と生活環境が調和した土地利用
- ・優良農地の保全・整備
- ・土地の利用・管理のあり方の検討
- ・豊かな自然環境の保全・活用

#### 【都市基盤施設等】

- ・道路の維持・整備、狭隘道路の改善など
- ・地域の実情に応じた公共交通やあり方の検討
- ・合併処理浄化槽設置の促進
- ・水道施設の点検及び更新計画、小規模水道施設の整備支援
- ・公共施設等の長寿命化
- ・洪水浸水想定区域の安全性の向上
- ・地域防災体制の構築・強化

#### 【地域コミュニティ】

- ・住民参画、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化



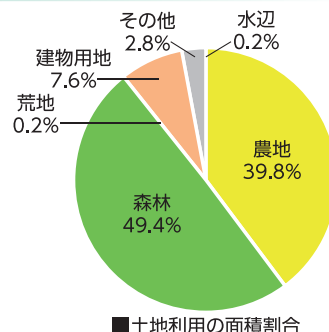
# 地域別のまちづくり方針

## 鹿央地域

### 地域の概況

#### 【概況】

- 山鹿市の南部に位置し、山林や農地等の自然豊かな地域です。
- 人口は減少傾向にあり、農地や山林の荒廃が進んでいます。
- 山間部では土砂災害のリスクが高くなっています。
- 古墳群や古代ハス園、鹿央物産館等を中心に、自然体験や観光交流にかかる取組が進められています。



### 地域の主要課題

#### 【地域の魅力】

- 日常生活を支える生活利便施設を整え、穏やかで潤いのある持続可能な地域づくりを進めることが重要です。
- 豊かな自然環境や歴史・文化を生かした体験型の学習や観光など、都市住民との交流による地域活力の向上を図ることが重要です。
- 基幹産業である農林業の振興を図りつつ、交通利便性の優位性を生かした新たな雇用の場の創出を検討することも重要です。



県立装飾古墳館

#### 【暮らし】

- 豊かな自然環境と融合した、持続可能でコンパクトなまちづくりが重要です。
- 農林業の振興、居住環境の確保及び開発動向等の観点から、土地利用のマネジメントが重要です。
- 日々の暮らしの質を維持するため、居住環境の整備等が重要です。
- 都市拠点とのアクセスの充実が重要です。



鹿央古代の森交流施設里やま(古代ハス園)

### 地域づくりの目標

#### 【テーマ】

自然と歴史・文化に触れ、**健やかに活動する地域“かおう”**

#### 【目標】

##### 自然と歴史・文化に触れる地域づくり

肥後古代の森鹿央地区の古墳群や古代ハス園、鹿央物産館等を生かして、自然と歴史・文化が融合した体験交流を促進し、市内外の人々が健やかに活動する地域づくりを進めます。

##### 豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

農地や山林など豊かな自然環境を保全するとともに、これらの恵みを楽しみつつ、生活の利便性確保、連携強化及び居住環境の整備等を図り、健やかに活動する地域づくりを進めます。

## ■地域づくり方針図(鹿央地域)

### ①自然と歴史・文化に触れる地域づくり

#### 【生活拠点】

- ・持続可能でコンパクトな地域づくり

#### 【交流核等】

- ・おもてなし空間の演出
- ・鹿央物産館やJAかもとファーマーズマーケットを核とする情報発信

#### 【産業】

- ・企業用地の適地検討と操業環境の充実
- ・農林業の活性化
- ・地産地消の推進、農業経営の活性化

### ②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

#### 【土地利用】

- ・適正な土地利用の誘導
- ・優良農地の保全・整備
- ・土地の利用・管理のあり方の検討
- ・豊かな自然環境の保全・活用
- ・森林地域の保全・整備

#### 【都市基盤施設等】

- ・道路の維持・整備、狭隘道路の改善など
- ・地域の実情に応じた公共交通やあり方の検討
- ・合併処理浄化槽設置の促進
- ・水道施設の点検及び更新計画、小規模水道施設の整備支援
- ・公共施設等の長寿命化
- ・治山・治水、開発規制や建築物の構造規制、警戒避難体制の整備
- ・地域防災体制の構築・強化

#### 【地域コミュニティ】

- ・住民参画、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化



# 役割分担

## 市民の役割

身近なまちづくり活動や身近な生活環境の改善など、自らできることを積極的に行います。

## 事業者等の役割

社会的な役割や専門知識の活用という観点から、地域の活性化等の活動を積極的に行います。

## 行政の役割

**【情報提供】**：様々な媒体を活用しながら、積極的な情報提供を行います。

**【支援の充実】**：適切な助言や専門家の派遣、助成制度の適用等の支援充実を図ります。

**【庁内体制の充実】**：庁内の連携等による、総合的かつ効果的なまちづくりを推進します。

**【関係機関等との連携】**：関係機関等との連携を強化します。

# 推進方策

## 都市計画の決定・変更

適切な時期に都市計画の決定・変更を実施します。

## 計画の進行管理

PDCAサイクルに基づき、本計画で位置づけた施策等を着実に実施するとともに、その成果を点検・評価し、改善を図り、必要に応じて計画の見直しを実施します。

また、各段階で積極的な市民・事業者等のまちづくりへの関与も求められます。



### 行政は

#### ①計画立案(Plan)

目標を実現するための計画(区域、施策、事業等)を立案します。

#### ②施策実施(Do)

施策やプロジェクト等を実施します。併せて、その成果の測定も行います。

#### ③点検・評価(Check)

指標等に照らし合わせて、成果を点検・評価します。

#### ④改善(Action)

点検結果をもとに計画を見直し、改善に必要な措置を講じます。

### 市民・事業者は

#### ①参画(Plan)

まちづくりへの主体的な意識を持ち、計画立案段階から参画します。

#### ②活動(Do)

身近なまちづくり活動、自らできる活動を積極的に行います。

#### ③気づき(Check)

普段の生活からまちづくりを意識し、様々な気づきに努めます。

#### ④提案(Action)

気づきをもとに、まちづくりに対する自らの思いを提案します。

## 山鹿市都市計画マスタープラン(第2期)【概要版】

発行年月/令和6年3月 発行/山鹿市 都市整備課

〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿987-3 TEL:(0968)43-1591 FAX:(0968)44-3200

<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/>